

平成26年6月5日（木）

同行援護従業者養成研修 2年地域福祉系列

視覚障がい者の外出支援（ガイドヘルプ）について学んでいる授業の一部である。今回は、視覚障がい者のスポーツ、ブラインドサッカーを体験し、障がい者への理解を深めた。

南あわじ市出身で、ブラインドサッカーチーム「兵庫サムライスターズ」で活躍する原口さんと障がい者スポーツ指導員の村上さんから教わった。



原口さんは、盲導犬に出会った時に注意してほしいことや白杖での歩行と盲導犬「バベル」と一緒に歩行することの違いについて話して下さった。また、道で視かく障がいのある人が困っていたら声をかけて欲しいと言われた。



まずは、生徒たちは、アイマスクをつけて歩く練習から始まり、鈴の音を聞きながら足の内側でボールを前へ進めていくという練習を行った。



ブラインドサッカーは、鈴入りのボールを使用するサッカーで、選手は鈴の音と「コーラー」と呼ばれるメンバーの声を聞き、ボールの位置を判断しながらゲームを進めていくスポーツである。



（生徒の感想）

前との距離感がわからないから、いつ壁にぶつかるか心配で怖かった。

盲導犬がハーネスを付けている時は、仕事なので気を散らすと集中力が切れて事故につながることもある。声をかけたり、さわったり食べ物を与えたりしてはいけないことを学んだ。



鈴の音と友達のを頼りにボールをおいかけることが難しかった。わかったことは単に、声をかけるだけは安心できないということです。もうちょっとという言葉は不安になる。あと何Mなど適切な指示することで、相手を信頼して動けると感じた。